

世界の首脳へ被災体験

夏季ダボス会議 仙台の高校生 訴え



【瀋陽＝比嘉清太】震災で肉親を亡くした仙台育英高1年、菅原彩加さん(16)と日下マリアさん(16)が14

▲ 中国の中学生らと交流する日下さん(右から2人目)と菅原さん(同3人目)(13日)＝あしなが青英会提供

日、各国の首脳や企業家らが出席し中国遼寧省大連で始まった「夏季ダボス会議」に招待され、被災体験を語った。

2人は被災地の現状を説明する分科会に出席。母と祖母を亡くした菅原さんは「こうした体験をしたから人の気持ちを理解することもできる。将来はつらい思いをする子供を助ける仕事がいい」と語った。

父を失った日下さんも「被災地で困っている高齢者を多く見た。介護士になりたい」と決意を述べた。2人は13日にも大連の中学生約50人と交流し、中国語で「頑張ろう」などと書かれたシーツを贈られた。